



大阪YWCA

3/4
2022

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

女性の政治参画

—仲間の存在が欠かせない—

中川智子



40年ほど前、当時の文部省が全国の自治体に一本の通達を出した。新聞記事によると学校給食をセンター方式（工場でまとめて作る形）にした。調理員を正規ではなくパートにして、もっと安上がりな給食にした方がよろしからう、という内容だった。

当時（今も）宝塚市は、小学校、中学校の9年間、学校ごとに給食室があり、公務員である職員が、心をこめて、美味しい給食を作ってくれていた。なので、子どもたちは毎日の給食をそれはそれは楽しみにしていた。

私はその記事を読んで、直感的に「給食が危ない！」と思ったので、新聞片手に友人宅を一軒一軒回って歩いた。が、危ないと思う人はほとんど

どおらず、「心配しすぎよ。大丈夫、大丈夫」と相手にしてもらえなかった。びっくりするほど関心がない。国や自治体への信頼がこれほど厚いとは……。しかし、その通達の威力はすさまじく、お達しが出た1985年以降、学校給食のセンター化、調理員のパート化、そして、民間委託は

なだれを打ったように全国に広がっていった。今では小、中の9年間を直営自校で行っている自治体は少数になってしまった。中学にいたっては冷たい仕出し弁当が配られている所も増えている。大人の無関心、無策でワリをくうのは子どもたちなのだ。

食は命の源、と思っていた友人2人と、たった3人で給食を守る活動を始めた。チラシを配ったり、勉強会をしたり、ただそれだけの活動なのに人は何だかんだとうるさい。何かとレッテルを貼りがる。めんどくさいので私は決めた。

「世間を捨てる」

それ以来、出来る限り「おかしなことはおかし」と言いつつ生きてきた。たった一

度の人生だから、と、迷った時には棄ててはならない方を選んできた。

その人生を貫けたのは、ひとえに夫の存在があったからだ。彼は生涯私の最高の理解者だった。友人の結婚式で私が一目惚れをし、逃げる彼を追い続けること9カ月。やっと一緒にいることができたのだ。世間を捨てることと引きかえに、私たちが強くなるためには仲間の存在が欠かせない。伴侶が最強の仲間となれば恐いもの無し。まずは「權より始めよ」といきましようか。

ながわともこ

和歌山県那智勝浦町生まれ。阪神淡路大震災のボランティアがきっかけとなり、土井たか子さんから声がかかり、1996年に衆議院議員選挙へ出馬し、当選。2003年まで2期7年の任期を全う。2009年には、2代続けて現職市長が逮捕された宝塚市の再建を目指し、市長選へ立候補し当選。3期12年、市民のための市政を実現するために全力を投じ、2021年4月に退任。



イースターメッセージ

名前を呼び合う関係性によって

イエスが、「マリア」と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で「ラボニ」と言った。「先生」という意味である。

(ヨハネによる福音書20章16節)

しおひかり なおみ
汐凜 直美

日本基督教団 奈良教会 牧師



制限の多い不自由な生活がすっかり日常となって、三日目の春を迎えました。人との直接的な交流が減っている中、何よりもつらく感じるのは、最期のお別れすらなかなか叶わなくなったことです。反対に、感染状況が少し落ち着いている時に、幸いにも葬儀に駆けつけることができたという体験もありました。集った方々と悲しみ嘆きながら、「共に泣く」ということはオンラインではできないのだと実感しました。

制限の多い不自由な生活から出ていきました。イエス・キリストを死の中から起こされた神さまが、あれほど涙に暮れていたマリアをも、もう一度立ち上がらせたのです。イースターの物語は、死の先にある永遠の命を私たちに指し示しています。私たちのつながり、名前を呼び合えるような具体的な関係性は、死によって断ち切られることはない、ということ。その最たるものが、神さまとの関係性です。だからこそ今まさに、一対一で向き合う信頼関係が問われ、求められているのだと、再確認させられます。困難の日々が続く中で、私たちもまた、神さまの存在を見失ってしまうかもしれませぬ。しかしたとえ私たちが神さまを見失ってしまったとしても、神さまは変わらず、私たち一人ひとりの名前を呼び続けてくださっています。涙

に暮れても、たとえ立ち上がることができなくなっても、神さまのそのみ声が、私たちが何度でも、再び立ち上がらせてくださるのです。



イースターとは
十字架で処刑されたイエス・キリストの復活を祝い、記念する日。イエスの復活が教会の基礎になり、信仰の根拠となった。



コロナ禍でのY活動、昨今の私の二題。

祓邪招福

ぶどうの木
ふっじやしろうかく

俳句の会は、講師の松田美子先生(高浜虚子先生のお孫様)は鎌倉からのご来阪がまん延防止で中止。でもコロナに負けてはいません。紙上句会と形式を変え文通で続行して下さっています。熱意ある会です。

家籠りの日、美子先生選の私の句を一冊にまとめることにしました。思いがけず自分史誕生。回想は 老ひの特権

走馬燈 俊子

YWCA入会は25才。数十年の歳月の間に出遇えた今は亡き先輩方に唯々感謝。

その二。「絵手紙教室」十数年になる足達富子先生の会は、メンバーも近隣。緊急事態宣言時の二回の他は「ヘタでいいヘタがいい」を合言葉に、会員ルームに飾り、YWCA伝統?のお茶タイムで交流。知友の無事を希って、絵手紙のぬくもりを送る昨今です。

(会員 栗原俊子)

NWECフォーラムに出展 12・18

私たちの言葉には



昨年6月にスタートした大阪YWCAインターンシッププログラム（女性のためのリーダーシップトレーニング）では、12月18日（土）国立女性教育会館（NWEC）による「男女共同参画推進フォーラム（通称NWECフォーラム）」に、オンラインでワークショップ出演し、全国各地から20人の参加者が集いました。

視したワークショップを企画し、グループディスカッションを通して、参加者と一緒に性教育について深堀りすることを目指しました。プログラムでは、まず日本の性教育と世界の性教育



「性被害」をテーマに行ったグループワークより

を比較し、日本の性教育実践における問題点を指摘しました。次に異なるテーマのワークショップ2つ（子どもへの性教育実践、性暴力・性被害）を行いました。参加者と共に自分たちができる性教育の実践を考えることよって、私たち自身も新たな気付きと刺激を受け、一緒にこのプログラムを楽しむことができました。当日までメンバー同士で互いに社会に対する疑問や思いをたくさん分かち合い、チームとしての信頼感を確かにしてきました。共にこのチームで活動できたことを心から感謝しています。（インターンシッププログラムの参加者 萩野久留美）



ある日のZOOM会議



「コロナ禍を生きる」講演会 「コロナ禍の心のケア」

千里ボランティア委員会主催（1/22）

第6波のコロナウイルスが猛威をふるっている最中、2度も延期になった土井直彦先生（日本基督教団牧師・臨床発達心理士の「コロナ禍の心のケア」の講演会がYWCA千里で開催された。
世界的災害とも捉えられる「コロナ禍」の中で私達は何をストレスに感じるのか、参加者全員で付箋に書き出した様々なキーワードを集約していくと、「発散できない不快」「少しずつ重なる不安」「満たされない不満」などに分類された。
さらにコロナ禍後の社会システムの変化に対応するために向き合ねばならない様々なことについてのお話、豊富な経験をもちの土井先生は短い時間で語り尽くせず、言葉が溢れ出るようでした。（会員 鈴木 二代）

「忘却の野に春を想う」
（白水社）
きょうのぶこ 姜信子・山内明美著



朝鮮からのコメ難民の末裔である作家姜信子さんと南三陸のコメ農家に生まれ育った歴史社会学者山内明美さんの往復書簡。植民地詩人李相和の詩「奪われた野にも春は来るのだろうか」からのタイトル。日本の近代化の中で埋もれた支配と被差別、差別と被差別～琉球、朝鮮、アイヌ、東北～の構図を描き出し、深い思索を伴った美しく説得力のある文章で胸に落ちる。
（編集部）

聖書の言葉

「彼の受けた懲らしめによつて、わたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によつて、わたしたちはいやされた。」
（イザヤ53章5節）



未来へ——安心を創る
FUJHI 藤木工務店

大阪本店 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-10
ニッセイ備後町ビル1階 TEL06-4964-8700

キリスト教葬儀に関する全てを承っております



株式会社 **イースター式典社**

代表取締役 小林 望

☎0120-415-087 (24時間) ✉info@easter-net.co.jp

営業エリア:近畿2府4県・福井・三重・鳥取・岡山・徳島・香川

兵庫県西宮市上甲子園5-10-23 TEL0798-37-3781 FAX0798-37-3789

http://www.easter-net.co.jp

Rise Up School Visits 活動報告

オンラインワークショップ

「わたしのからだはわたしのもの わたしとあなたの同意のはなし」



教室での参加風景

2022年2月12日(土)、プール学院中高 YWCA部の生徒8名に向けて、「わたしのからだはわたしのもの わたしとあなたの同意のはなし」と題して、同意と自己決定をテーマに、オンラインでワークショップを開催しました。

「Consent for kids」(子どもたちのための同意形成)という動画を視聴してもらいながら、「自分の身体のこと自分で決めていい」という自己決定について意識を高めてもらったり、2人ペアの片方のみに握手をするよう呼びかけ、もう一人は何も知らない状態で握手をされるというワークを通して、「相手の同意を得る大切さ」を伝えました。

「人それぞれ価値観が違うから同意を得ることが大事だと気づいた」、「最後にデートDVなどの相談先を聞いてよかった」などの声があり、和やかな雰囲気最後まで進みました。社会人メンバー・ゆき、みゆき、大学生メンバー・みほの3名で構成する今年度のチームでは初めての開催ながらも、充実した時間となりました!

(RUSVボランティア)

足立 有希



information

状況によっては中止・延期となる可能性がございます。詳細はお問い合わせ下さい。06-6361-0838

こども向けイベント 春休みこどもミニスクール

【日時】2022年3月29日(火) 午前10時~午後3時
【対象】小学1年~6年生
【会場】大阪YWCA梅田本館
【参加費】4,000円

トークイベント! 2021年度大阪YWCAインターンシップ プログラム最終回

【テーマ】私たちの言葉には力がある -“つるむ”ことから始めよう-
【時間】3月20日(日)14:00~16:00
【開催形態】オンライン
※会場(大阪YWCA本館)での参加も応相談
【キックオフスピーチ】「声をあげる勇気と仲間の力」伊礼ゆうきさん

ご協力ありがとうございます

賛助費

日下部真知子 木幡 敦子 小林千重子

寄付

朝川 晃子 広瀬 圭子 渡辺 知子

横内いづみ 徳広 彩

点字

日本キリスト教団豊中教会

学校法人伊丹教会学園 葉幼稚園

千里委員会

村松 通子

女性エンパワメント推進チーム

小澤 裕子 村松 通子

その他

家本 陽一 池田 洋子 山下つねよ

高橋 和子 松田 慶子 上田 賢博

片山 隼亮 鹿野 憲一 鹿野 幸枝
村松 通子 小八木晴代 藤岡美智子
住田サーラ
一般財団法人中山文甫会館
クリスマス献金

都木 恵子 阪本 和子 吉田 信子
溝手 伸子 溝手 真理 加藤 康子
山本 淳子 帆足 文子 瀧本 政子
田中 淳子 中津 陽子 吉田 曉美
村川 京子 鈴木 豊子 辻 加代
永井 淑子 飯田 雅子 高野美美子
山川 文字 原 紀子 錦織 一郎
植木 知子 古河 順子 森垣 房子
栗津 純子 川崎 仁子 白川 啓子
田中 礼子 中山ゆかり 末吉佳世子
笹部 昌子 上野 康子 葛良 清子
西名 貞子 内坂 建 小池りつ子
波田 則子 西条 哲 山東 史子
高木 裕子 田中 義信 北尾 敦子
芹野 与幸 芹野 恵美 藤井 保男
笹部 真樹 堀 西敏子 奥野由里子
関根 久子 伊藤 景子 沢田 陽子
くるのみ幼稚園 所佳子 樹居 孝
松田昌裕 ブイカインリン

日本キリスト教団大阪城北教会
日本キリスト教団南住吉教会
日本キリスト教団北千里教会
日本キリスト教団都島教会
日本キリスト教団扇町教会
匿名7名

募金

21口 308,005円

訃報

会員 太田 麗子さん

12月31日逝去(73歳)

会員 栗津 純子さん

1月14日逝去(72歳)

お詫言と訂正

1月号4面「ご協力ありがとうございました」でお名前間違っていました。お詫言して訂正いたします。(誤)太平美保子 (正)大平美保子

12月運営委員会報告

【報告】▼平和環境部 12/18憲法カフェ「国民投票法改正案の問題点を知る」

▼こども部 12/5「歌声届けようハッピークリスマス」▼千里委員会 12/8クリスマス会

【協議】①日本Y主催「運営委員のためのワークショップ」準備 ②定期会員集會について

1月運営委員会報告

【報告】▼女性エンパワメント 12/18インターンシップ プログラムNWE C 出展 「私たちの言葉には力がある! 性教育について考える」

▼千里委員会 1/22講演会「コロナ禍の心のケア」▼専門学校 2/2会話交流プログラム ▼帰国者支援事業 12/18地域交流バス旅行

【協議】①2022年度の委員会構成について